本日の大会に拉致議連会長の平沼赳夫会長が、出張のためどうしても参加することができないので、議連幹事長を務める衆議院議員古屋圭司が平沼会長にかわりご挨拶をさせていただきます。また、私は自民党の拉致問題特別委員長も務めているので、その立場からもお話させていただきたい。

再調査約束を北朝鮮が破棄して 3 年が経過しました。この間、わが国においては政権交代があり民主党政権が誕生し、2 年間で総理は 3 人目、拉致担当大臣は、今日ご出席の山岡氏で 5 人目となりました。わが国が拉致問題に厳しい姿勢で臨んでいるというメッセージは果たして北朝鮮・金正日に届いているだろうか。

今日ご参集の皆さんはそんな忸怩たる思いで、この大会に臨んでいるのだと推察します。我々拉致議員連盟のメンバーもその思いは共通です。
しかし、このたび野田新内閣が誕生しました。野田総理にはこの拉致問題について眦を決して取り組んでいただきたいとエールを送りたい。

まず、山岡大臣にお願いを申し上げたい。大臣といえども国会議員として議員連盟に参加するのは自由ですし、ましてや拉致問題解決のための「拉致議員連盟」です。ぜひすぐに参加をいただきたい。

去る 8 月 29 日、菅総理が辞任直前に空白の一日を使うようにドサクサに紛れて突然朝鮮高校の無償化手続きの開始を指示しました。信じられない行動です。
我々議員連盟も自民党も当初から朝鮮高校を無償化の対象とすることには大反対の意を表明してきました。

その理由は、朝鮮高校は金正日の独裁体制を支えるための思想教育機関であり、教育基本法や学習指導要領に反する存在であること、さらには、わが国は北朝鮮に対して制裁を課して一切の支援をしていないこと、そして何といっても拉致問題で誤ったメッセージを発する危険性があることから強く反対してきました。

今回の再開の理由は、「昨年 11 月の北による砲撃以前の状況に戻った」というのが根拠ですが、8 月には北朝鮮はミョンビョンド付近の海上に砲撃を行っており、ファンギブン国連事務総長もいまだに安定していないと明言しています。
なぜ、砲撃以前の状態に戻ったのかが全く明らかになっていないし、その手続きも問題であるだけでなく、外務大臣の記者会見をみても事前に綿密な協議や韓国との調整を行った形跡はなく、ましてや中野前拉致担当大臣には一切の相談もなく、本人も反対の意を唱えています。

自民党としても先週の金曜日にこの朝鮮高校無償化再開の即時撤廃を新内閣に強く求めた。当然であります。
野田政権は世論調査によると５０％から７０％近い支持率がると報道されています。

この世論が本物かどうかを占う最初の試金石がこの朝鮮高校無償化の取り扱いです。絶対に再開がされることのないように議連としても強く要請するものであります。

そのほかにも対北朝鮮問題の試金石として2点を指摘させていただきます。

それは、菅前総理をはじめとして民主党国会議員、そして関連の地方議会議員が、北朝鮮拉致実行犯と深い関係にある政党や関連団体に、総額3億円近い資金提供をしていたという事実。菅総理が辞めてもこの問題はなんら解決していないことを改めて指摘させていただくとともに、野田新総理においては党代表としてその説明責任があることを指摘させていただきたい。

二点目は、北朝鮮のアジアオリンピック委員会の役員とサッカーワールドカップ予選の北朝鮮選手のわが国入国についてであります。
2007年以降、わが国は制裁強化により北朝鮮籍の人を表玄関から一人も入国させていません。たしかに、ＩＯＣやＦＩＦＡの規則により人種や政治的問題を関与させてはいけないということが謳われていることは承知いたしております。
しかし、その交渉の過程で「わが国の意志、国家の意思として北朝鮮の人を入国させない」ということをはっきりと伝えたうえでの交渉だったのかを国会の委員会で質問したところそれはやっていないとの答弁でした。
最終的にはＦＩＦＡなどの規定により入国することになるという結論は変わらないとは思いますが、わが国の厳しい姿勢を示すことが北朝鮮に対する牽制になるのです。逆にいえば、なにも発信しないことが北に足元を見られることになりかねないのです。

ぜひとも、野田新内閣においては、拉致問題を始め対北朝鮮に厳しい態度で向き合っていただくことを切に期待します。

最後に、この7月に拉致議連、家族会、救う会合同で、一昨年に引き続きワシントンを訪問して、米国政府関係者や関係上下両院議員などに精力的に面会し
・ テロ支援国家の再指定
・ 北朝鮮への食糧援助は絶対に行うべきではない
・ 日本の拉致問題への日米の協力について要請
を行ったことをご報告させていただき、本日の挨拶と致します。

拉致議連　幹事長
自民党　拉致問題特別委員長
衆議院議員　古屋圭司